

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4391500065
法人名	医療法人 社団 孔和会
事業所名	グループホーム 桜ん里
訪問調査日	平成 21 年 4 月 2 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4391500065
法人名	医療法人 社団 孔和会
事業所名	グループホーム 桜ん里
所在地	熊本県天草市河浦町白木河内116-1 (電 話) 0969-76-0506
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年4月23日

【情報提供票より】(平成21年4月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人、非常勤1人、常勤換算7.5人	

(2)建物概要

建物構造	併設		新築
	1階建ての	1階	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	330 円	おやつ	0 円
	または一日当たり		780円	

(4)利用者の概要(4月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	天草市立河浦病院、天草地域医療センター、松本医院、 松本内科眼科、生田歯科、内崎歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から1年。地域との交流を大切に、理念に基いた運営に努め、「桜ん里」の存在を周辺地域に浸透すべく努力している。有線放送や運営推進委員からの情報を活用し、地域行事に利用者と職員が参加したり、ホーム主催のイベントには住民の参加を呼びかけるなど、住民との距離が徐々に近づいている。毎朝の散歩コースに、地域住民から腰掛や日差しよけの休憩所がさりげなく用意され、優しい見守りが感じられ、良い関係が出来ていることが分かる。リビングから聞こえる「いつでも夢を」のメロディーにのせた「桜ん里」の歌声は元気で明るい。運営推進委員会や家族会開催など、運営の基盤づくりも順調に行なわれ、母体医療法人からの、定期的な往診もあり、入所者の安心に繋がっている。職員は記録様式に工夫を続け、ケアプランに添ったケアの提供が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員参加で評価項目を解釈し、日々のケアを振り返っており、その過程で発見した課題を改善への具体的な行動へと繋げるなど、効果的な活用となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、グループホームの役割・運営・活動内容等の情報を発信し、認知症についての理解を深めるための取り組みを行なっている。また、地域の行事情報や緊急時避難体制作りへの支援等、開設時から協力的なサポートを得、2年目はホーム運営に関し、委員からの積極的な意見を期待しており、効果的な会議の運営を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会ではホームの1年間の様子を写真にとって報告したり、座談会を設け、家族の思いを聴き取るための工夫をこらしている。2年目にあたり、自主運営の家族会設立を促し、意見や不満の言いやすい環境を作り、家族の協力を得ながらの運営を目指している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設にあたり地域への挨拶、地元職員の積極的な採用など、地域密着型の運営を行なっている。神社清掃や納涼祭へ参加したり、ホーム主催の「桜音楽まつり」やそうめん流しへ地域住民の参加を呼びかける等、機会を捉えて地域との交流を大切に取組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設準備に携わった職員で話し合いを重ね、「今を心地よく、私が私らしくあるために」をモットーに、入居者の人生や、家族・地域との結びつきを大切にしたい思いを3項目にまとめて、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の精神を「わたしらしくあるために」というテーマで「桜ん里」の歌を作り、「いつでも夢を」のメロディーで入居者と共に歌い、地域の人にも披露する等、身近で分かりやすくするための工夫が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の神社清掃に職員と入居者が参加する等、交流が図られている。有線放送を利用して地元情報をキャッチしたり、ホーム主催「桜音楽まつり」への参加を呼びかけている。グループホームの存在・役目等を地域広報として伝えるため、有線放送に協力を依頼することも良いかと思われた。有線電話に加盟し、利用者が家族だけでなく、地域住民と自由に会話できる支援も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価であり、同法人内でのグループホーム経験者を中心に全職員参加で評価意義、項目の理解、評価の仕方などを勉強し、多くの振り返りができている。今後、取り組んで行きたい内容に具体的な記入があり、早速行動に移すなど、改善への意欲が窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年目は運営推進委員会にホームの役目・運営・活動内容や認知症に関しての情報等を発信してきた。委員からは地域行事への誘いや、災害対応情報等が得られている。2年目の今年はいよいよ積極的なホーム運営に関して意見を期待するなど、会議の有効活用への意欲が感じられた。	○	入居者と一緒に食事をとる機会等を通して、より理解を深め、気づきや意見を引き出すことも一案かと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者支援課とホームの認知症介護専門家が協力し天草市の「認知症を考える会」を発足させ、会長や運営委員としての役目を担って地域への貢献に取り組んでいる。また、困難事例の相談を受けたり、ホームでの行事へ行政の参加を促すなど、協力的な関係作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は週1回から2回。請求書送付の際、近況報告のコメントを添え、支払は持参を依頼し、会話を通しての報告の機会を大切にしている。遠方の家族には、担当職員が生活ぶりの写真や「さくら新聞」を送付し、家族との結びつきを大切にしたい支援を行って、理念実践への取り組みに努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回「家族の会」を開催。4月には花見を行い、5組の家族が参加。次回は家族の思いや意見を聞き取るために座談会を検討している。自主運営する家族会の発足を促し、意見や不満の言いやすい環境を作る等、家族の協力を得ながらの運営を目指している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はグループホームの特性を考慮し、出来る限り人事異動を行なわないことを運営者に進言している。止むを得ない場合は、交替期間を設け、顔馴染みの関係を確立してから交替するように考えており、利用者のダメージを防ぐ最善の姿勢が示されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事前にアンケートを取り、研修内用等を検討し、2ヶ月に一度内部研修会を行っている。母体法人・GH連絡協議会などからの外部研修案内には、職員の希望を募り、出来るだけ希望に沿える支援を行っている。管理者は、「私が私らしくあるために」というホームのモットーに添って、職員自身も自分らしい考えを發揮できる環境を配慮し、自主的な学びを促し、育成に励んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草市グループホーム連絡協議会に参加し、2ヶ月に一度管理者・計画作成担当者レベルの交流を行なっている。認知症介護研修の実施施設となっているため、実習生の受入れ・情報交換等を行ない、多くの気付きを職員が得ており、サービスの質の向上に良い影響を与えていることが伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人や家族と顔合わせを行ったり、併設のデイサービス利用を提案し、馴染みの関係作りを大切にしている。待機者には、時々連絡をとりながら現在の状況を確認し関係の継続を図る努力を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問者へのお茶だしや野菜を切ったり味見をしたり、食事の準備、おやつ作り、漬物作り、洗濯物の皺伸ばし、洗濯物干し等、得意なこと、できる事は、丁寧な言葉使いで依頼し、お礼を言う、共に支えあう関係が出来ている。食後の歯磨きが入居者と職員の区別なく並んで行なわれていた様子が、自然で、共に生活を送っている様子が伺われた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思いを聴き取る努力は勿論、言葉で表現できない利用者の思いを知るために「思考展開シート」を利用している。入所者の行動の背景にどのようなことが考えられるのか、疾病・家族関係・環境・精神的な問題・生活歴など、項目を整理しながら可能性を探る方法で改善努力を行なっている。また、入浴拒否の人の思いを探り「終い湯ですよ」と声かけすると、長年の習慣から「それなら入ろうか」と、気持ちに変化が起きたケースもあり、効果が出ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報・ニーズの聴き取り、アセスメントを行い、ミーティングやカンファレンスで、意見交換や情報を共有し計画作成している。独自の「知るためシート」を作成し、苦労話・信仰・おしゃれ・お風呂のこだわり等、具体的な項目を設け、書き込みを増やし、本人本位の介護計画作成のために努力が続けられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に沿った日々の記録や毎月の評価、3ヵ月毎に行なわれる計画作成者による評価のプロセスを経て、6ヶ月ごとに計画が見直されている。毎日のケアは、常に介護計画を参照に行ない、記録され、評価時には具体的で詳しいケア記録が得られるように、様式に工夫があり、現実に沿った計画見直しに有用であると思われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービス利用者のホーム訪問を受け入れ、昔馴染みとの交流を支援している。仏壇参りをしたい人の家まで同行したり、スイカの好きな人のためにスイカ割をしたり、漁師だった人を海を見に連れ出したり、本人の要望を聴き出して、希望に応じる柔軟な支援が続いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入所者の全てが母体法人の病院長を主治医としている。毎月2回訪問診療を受け、健康管理を行っており、受診時は身体状況・生活状況をドクターに伝え、体調把握に努めている。診察結果は面会時や電話で家族に伝え、家族の安心に繋げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	1年目であり重度化に向けた準備や方針の共有はこれからの課題と思われる。ターミナル期のケアについては、母体病院で勉強できる環境が整っており、それらを活かし、今後取り組んで行きたいとの意欲が伺われた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	否定的・指示的な表現を避け、依頼する言葉かけを徹底している。排泄の兆候を察知し失敗を防ぎ自尊心に配慮するケアに努め、さりげない介助が行なわれている。個人記録はキャビネットに施錠して管理され、個人情報保護の意識が伺われた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースについて職員間で検討し、無理強いはしないものの、生活のリズムを作るために、規則正しい過ごし方への働きかけを行っている。食事の仕度をする人、洗濯物を干す人、テレビを見る人・職員の見守りの中で様々な過ごし方が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園のブロッコリーをジュースにしたり、ネッタボやホットケーキのおやつを作ったり、洗い物をしたり、料理の手伝いや味見をしたり、一緒に行く楽しみを支援している。また、ラーメンの出前を利用したり、レストランに出かけたり、庭先で昼食をとる等、季節感を味わい、環境の変化を楽しむなど、様々な工夫が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施し、少なくとも1日おきには入浴できるよう心がけられている。職員と1対1の入浴介助や、利用者同士誘い合って入浴することもある。入居者の生活歴に応じて、夕食後の入浴も可能で、菖蒲湯・柚子湯も取り入れ季節感を大切にしている。近くの足湯に出かけることもあり、入居者の楽しみの一つになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生日には本人が一番したいことを聞いて支援している。海の景色を見ながら甘いものを食べたい人・自宅を訪問してお仏壇参りをしたい人・買い物に出かけたい人、一人ひとりの気晴らし・楽しみごとを叶える努力を職員の喜びとしている。隣接のデイ利用者との交流も、馴染みの顔に会える楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけている。散歩コース途中には、利用者が休憩できるように腰掛けを置いたり、日差しよけを作る等、近隣住民の温かさがさりげなく示され、利用者へサポートが感じられる。週3回の食材購入同行や行きつけの理美容室等へは日常的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず玄関に設置しているセンサーの音で見守りを行なっている。隣のデイサービス利用者の帰宅時に、落ち着きがなくなり帰宅願望が出る場合は、送りの車に同乗し、気分の落ち着きを図るなど、本人の気持ちに寄り添った支援を行っている。毎日の散歩を行なうことで、帰宅願望を緩和する効果が出ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員や近隣住民の協力を得、緊急時支援体制を作り、利用者も参加して年2回の避難訓練を行っている。母体法人全体の緊急呼び出しや、近くに住んでいるスタッフ支援体制もあり、夜勤帯の災害を想定した避難訓練も4月に実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士が作った献立を利用し、栄養バランスに配慮した食事を提供している。食事・水分摂取量は毎回確認し、業務日誌に記録し状態の把握を行なっている。状態に応じて主治医に相談し、栄養摂取の見守りが行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良い食堂兼リビングと和室は居ながらにして季節の移り変わりを楽しんだり、庭で洗濯物を干す利用者や職員の様子を見ながらノンビリ過ごす等、安心できる環境となっている。廊下の壁には心に響くメッセージや歌詞が掲示されている。	○	廊下に面した居室・トイレ・倉庫のドアが同じであり、間違いやすいと思われる。自室のドアに特徴を示し混乱なく出入りでき、トイレにもスムーズに行けるための工夫を施されると、さらに良いと思われた。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		○	本人や家族の自主性に沿った部屋作りとは思われるが、「心地よい空間づくり」を支援するためのアイデアの工夫が欲しい。ドアからベッドまでの手摺の配置が十分なのか気になった。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 桜ん里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市河浦町白木河内116-1
記入者名 (管理者)	辰元一二美
記入日	平成 21 年 2 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今を心地よく私がわたしらしくあるために」をモットーに、入居者の方の人生を共に考え、閉じこもることなく地域へ出かけたり、御家族との結びつきを大切にしたケアの実践を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に意識できるようにモットーを目のつくところに掲示し日常業務の間でも振り返りが行えるようにしている。	○	理念に曲をつけ振り付けを考え体操等に取り入れていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	外玄関や内玄関に掲示し誰でもいつでも目にしてもらえるようにしている。また行事を通し地域と交流を行う際繰り返し伝えたり、運営推進会議の中でも伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩時には地域の方と挨拶を交わしながら行い休憩の場所を提供してもらっている。また家でとれた作物や漬物等を頂いたりこちらからお茶菓子の御すそ分けをしたりやとりを行いいつでも立ち寄ってもらえるようにとの声かけを行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月老人会の神社掃除に参加したり、地域の行事(夏祭り・秋祭り・虫追い・正月獅子舞)に参加し交流を行っている。また地元の商店に買い物に出かけたり、有線放送を設置し地域の情報を積極的に取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症を正しく理解してもらい認知症を自分の事として身近に感じてもらい協力してもらえるように認知症についてを広報誌に掲載している。	○	地域の集会(老人会や地区行事)の時間に認知症についての講演等を定期的に取り入れてもらうようにしたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症研修施設として外部からの評価を意識して取り組んだり、今回自己評価資料を基に評価の意義を知り、全員で話し合い、改善へと繋げている。	○	評価を(振り返り)を目的としたカンファレンスを実施していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回自分たちの取り組みをまとめ報告し、和気あいあいとした雰囲気の中で委員の方からのご意見やアドバイス等を頂きサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	天草市の認知症を支える会発足等にて情報のやり取りを行い質の向上に努めている。イベント時は案内をし、困難事例の相談等での情報のやり取りを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地元で開催される研修には参加し理解を深めたり。実際に関係者と話し合うことも行った。	○	県の権利擁護推進員研修への参加を予定しているため終了後は研修報告として時間を設け周知したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、新聞やテレビ等の事件を話題に取りあげ勉強し意識付けしている。また研修修了者による法人内での研修にも参加し防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会を開催し意見交換の時間をとって行きたい
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	H20年4月開設にて、人事異動はまだ行われていない。 交替期間を設け利用者が混乱しないように関わり顔馴染みの関係を確立してから交替するようになりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度勉強会を実施している。(事前にアンケートにて要望を聞き内容の計画を行う)また外部研修にも参加できるように内容を掲示し、希望をとり参加してもらい研修報告書やミーティング等で報告したりと他スタッフにも随時情報の提供を行うようにしている。またケアマネ受験を通して介護保険制度への理解を深めるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や見学訪問等を行いネットワークづくりやお互いのサービスの向上に取り組んでいる。また熊本県の認知症介護研修の実習施設となっているため実習生の受け入れを行いながら情報交換を重ね研鑽している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保を行い気持ちの切り替えを行う時間を設けている。またトイレや廊下等に癒しのメッセージカードを掲示し業務中でもふと目にして心を和ませるようにしている。	○ 定期的に食事会を設けストレスの発散の場にできればと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別面談を実施し個々の目標を支援する態勢を行っている。また労いの言葉や差し入れ等で感謝の気持ちを伝えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を行いご本人や御家族からの情報を収集し、ニーズの把握に努め、よりよい人間関係が図れるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問にて御家族の思いを聴く時間を設けたり、桜ん里の思いを伝え事前に見学してもらえるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で、今何が必要かを見極め他のサービスの紹介や担当ケアマネとの連携を図っている。また判断に困るときには当法人に相談して適切な支援が図れるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問しご本人と顔合わせを行ったり、日中併設のデイサービスの利用を提案し馴染みの関係作りの為お試し利用を行ってもらったりした。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる部分はなるべく手を出すことなく行ってもらえるようにし、スタッフはさりげなく見守るようにしている。また何を行うにも相談を持ちかけ意見を聞くようにして沢山の知恵を頂くことでスタッフも学びを得たことの喜びと感謝を伝えるようにしている。行事などはスタッフも共に楽しむよう計画し実施している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会の計画時は御家族とも相談しあって計画したり、必要時は共に参加していただいたり、外出・外泊等の機会を持っていただけるよう相談したりと共にご本人を支えているという関係を築けるように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事参加や必要物品の購入・衣替えなど御家族の関わりを多く持っていただけるよう声かけしたり、電話での声の便り等のやり取りをして頂く等関係が継続するよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日にはご本人の希望や御家族の意向を尊重し、馴染みの場所や、行きたい場所や好きな食べ物を提供できるように計画したり地域の行事へも積極的に参加している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないように居室に寝かせきりにしないようにしている。フロアに居て孤立しているような時は早く察知し話題の提供やレクリエーションの参加へ呼びかけたりしている。また利用者間の変化も観察し、皆で話し合い改善策を考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設への入所や、入院時にはスタッフが交代で面会に行ったりしてできるだけ今までの関係が続けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を行うにもご本人の意思を確認し行うようにして困難な場合はご本人の立場になって真剣に検討しご本人の意向に添えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れより多くの情報が取り入れられるよう努めている。	○	環境の面ではまだまだ不備な点が多く、今後も御家族と相談しながら馴染みのある空間、居心地の良い空間作りの為整備していく予定である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の出来る事出来ない事の把握に努め能力や意志に基づき活動を行ってもらっている。(調理・掃除・畑仕事)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスで意見を交わし情報の共有をしながら個別性を重視した計画を立てるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価を行いながら変化時はケアカンファを開きチームで考えてご本人や御家族の了解のもとに計画の変更と具体策の実施を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	オリジナル用紙を用いてご本人の様子や、スタッフの気づきを書き込み課題に沿ってSOAPで記録し残すようにしている。またそれを基に計画作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけご本人の要望を聞き、御家族の同意のもと外出や外泊等ご本人の要望に添えるよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア活動の受け入れを行い交流を図ったり、桜ん里行事には参加を呼びかけたりしながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	必要に応じて訪問看護の利用等他サービス事業者との連携を図る予定である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加時ご意見や、その時々々の指導を仰ぎ協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望や御家族のご意見を聞き、定期受診時には身体状況はもちろん生活状況も重ねて情報提供を行い、結果は面会時や電話等で御家族へ伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が医師であり、認知症にも詳しく(認知症専門医研修受講終了)、かかりつけ医でもあることから受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	顔馴染みのナースの配置をしている。またかかりつけの看護職に対しても情報提供書を渡し状況の把握をしてもらったり、検査結果の確認をしたり、相談したり連携をとり支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	オリジナルのサマリー用紙で情報提供を行い、スタッフのお見舞い等により入院生活が問題なく早期に退院できるよう相談にも乗っている。入院時の見舞いは人的環境の変化を最小限にとどめる効果も出ており、ADL面の自立支援も継続してできる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	家族会等で御家族の意向を確認して行こうと思う。その後は病状の見極めがついた段階でまた意向を確認しながらかかりつけ医と職員全員で話し合いを重ね方針を決めて行きたいと思う。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	センター方式を元にご本人御家族の意向を確認した上で、終末期も受け入れる方針であることを前提に、勉強会等で取り上げ終末を迎えるにあたって自分たちにも出来る事や役割等への意識や認識について全員で方針を共有しなければと思う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		○	移り住む際は十分な情報提供を行うと共に、事前に数回移り住む所に共に訪問し環境に馴染みやすい様に支援したいと思う。フォローアップとして、スタッフの訪問やホームでの行事への参加も呼びかけていこうにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を持った言葉かけ(方言でも敬語を使つての言葉かけ)やさりげない介助を心がけている。記録物は施錠管理を行い、個人情報保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択する場面を多く提供できるようにして自分の意思で決定してもらう。(飲みものやおやつを選んだり、出かける場所や散歩等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	用事を頼まれたり声かけられた際は立ち止まり話しをするようにしている。どうしても無理な場合は事情を説明し代人をもって必ず対応するようにしている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容に関しては馴染みの美容室がある場合はそこを利用し、洋服は介助を必要とする方でもご本人に確認し選択してもらい決定している。季節や状況に応じた身だしなみの支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や得意料理と一緒に作る計画を行い作って食べたり、希望に応じて御家族の了解のもと外食に出かけたり、出前を取ったりしている。天気の良い日は庭先で昼食をとったりと開放的な気分を味わっていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙者は現在のところ無いが、毎回飲み物は希望を聞いて好きなものを飲んでもらうようにしている。おやつも希望を取り入れ作る作業から入居者に指示を仰いだりして賑やかに楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	サインを見逃すことが無いよう観察し誘導を行っている。排便・水分量のチェックを行いながらその方にあつた対応を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節を取り入れた入浴(菖蒲湯、ゆず湯等)を取り入れたり、温泉や足湯に出かけ楽しく入浴できるよう工夫している。入浴の声かけを行い同意を確認しながら入っていただくようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	添い寝が必要であれば一緒に添い寝をしたり快眠できるよう室温や環境にも配慮している。シーツ洗濯や布団干し等も定期的に行い気持ちよく休んで頂ける状態を保っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物の希望や外出などの意向は行事計画などに反映しできる限り希望に添って実施している。調理や洗濯物・掃除等役割を持って行ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ対応している。買い物に出かけた際も可能な限り支払いを自分で行って頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事予定時はもちろんのこと地域から情報があつた場合には臨機応変に対応し参加を募ってできるだけ外に出かけるようにしている。毎日散歩にも出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には可能な限り行きたい所を確認し実現できるようにしている。また墓参りや住んでいた場所などへも御家族の協力の元出かける機会をつくるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればスタッフが取次ぎのお手伝いをして直接自由に会話していただいている。要望があった時点でできるだけ対応するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には各自の居室でゆっくり過ごして頂きお茶やおやつを共に召し上がってもらったりし和やかな雰囲気作りに気がかけている。笑顔の挨拶やお見送り等のコミュニケーションにも配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で行っている研修会に参加したり外部研修会参加で知識を深め実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出入りしていただけるようトイレ・玄関・窓以外は施錠なしにしている。玄関にはセンサーを設置し、出入りがわかるようにしており防犯の意味で21時に施錠するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	人数確認や所在確認を随時行いスタッフ間でも声を掛け合うようにしている。夜間は見まわりを1時間毎に行い状態の観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	能力に応じてできる限り使用していただけるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人介護ファイルに写真を添付し行方不明に備えている。転倒に関しては睡眠状況や歩行状態の観察により防止に努める。火災に関しては火の元のチェックや定期的な防火訓練の実施を行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会と実施訓練(救急蘇生法・止血法・誤嚥時)を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は定期的に行ない、運営推進委員の方へも呼びかけをおこない協力を得られるようにしている。また孔和会全体の緊急呼び出しや、近くのスタッフの協力が受けられる体制作りをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクの説明を行っているが、面会時は随時状況報告を行い、予想されるリスク等の説明も行うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い観察も注意深く行い、いつもと違う行動や異変に気づいたときは看護師と相談しスタッフ間でも申し送りを徹底し共有するようにする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬の処方箋を個人カルテに添付し把握と確認ができるようにしている。不明な点は医師や薬剤師に確認を行い解決している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を積極的に行い量の把握や繊維の多い食物を取り入れたり水分補給に牛乳を取り入れたり、手作りの野菜ジュースを提供したりしている。また体操や散歩等で運動を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解した上で毎食後は必ず歯磨きを促し、入れ歯の清潔に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取が確保できているかの把握を行い強制にならないよう水分の摂取ができるようにしている。食事は管理栄養士が立てた献立に添って提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアル作成とや勉強会を行い予防に対する認識の共有を図っている。また、うがいや手洗いの励行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	安全な期限内で調理と管理が行えるように1日毎に買出しに出かけている。食器やふきん等はハイター消毒や日光消毒をこまめにおこなうようにしている。また調理開始時は手洗いの励行を促している。冷蔵庫内の片付けや庫内消毒も定期的に実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は自由に出入りできるようオープンにしている。夏場は玄関の扉を開放し開放感を出せるようにしている。	○	外回りの環境整備を行い地域の方も自由に入ってきてくつろいでいただけるようベンチを設置したりしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように季節の花を飾ったり、季節ごとに合わせた壁飾りを掲示している。日差しが強いときはカーテン等で適度な日差しを保ったり、照明をおとしたりして刺激にならないように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の間に洗濯物をたたまれたり、椅子にすわり外を眺めたり、テーブルを囲んで会話を楽しんだり、テレビを観たり自由にできるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団等もできるだけ自宅で使用されたものを持参していただき、家具等も馴染みのあるものを置くように御家族に相談している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は定期的に行いだよみが無いよう心がけている。空調の温度調整もスタッフが管理し行っているが個別の訴えにもその都度たいおうするようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者1人ひとりのそれまでのスタイルや能力に配慮し畳に布団であったり、立ち上がりが困難な方はベッドを使用して頂く等している。廊下には手すりを設置しつかまり自立歩行を促している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	文字や目印の認識が可能な方には能力を活かして行動していただいている。読み取りやすい言葉の工夫を行い(トイレではなく便所)出来るだけ自分で移動ができるようにと考えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	フロアーには掃きだしの窓があり庭が一望できるようになっており中に居ても四季折々の季節が楽しめるように植樹している。また畑も設置し季節の野菜を入居者の方と共に楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)